

2011年度業績の概要と戦略施策の進捗

LEAD THE VALUE

株式会社 三井住友フィナンシャルグループ
2012年5月15日

2011年度総括

中期経営計画初年度として、計画を上回る順調な滑り出し

- SMBCの好業績を主因に、SMFG連結当期純利益は5,185億円と、前年比+426億円増益
- グローバル展開、銀証連携、クレジットカード／コンシューマーファイナンス事業をはじめ、戦略施策は着実に進捗
- 「3つのC」(クロスセル、クレジット・コントロール、コスト・コントロール)を徹底するとともに、「健全性」、「収益性」、「成長性」のバランスの取れた向上を追求

1株当たり情報(SMFG連結)

	11年度	前年比	12年度予想
1株当たり当期純利益	374.26円	+37.41円	354.52円
ROE(株主資本ベース)	10.4%	+0.5%	
配当	100円	-	100円

	12/3月末	11/3月末比
1株当たり純資産	3,856.37円	+322.90円

2011年度業績の概要と戦略施策の進捗状況

業績の概要

業務粗利益		SMBC単体
国際部門を牽引役にマーケティング部門増益 市場営業部門も高い収益を確保	前年比 +7億円	15,325億円
クレジットコスト		SMBC単体
ポートフォリオ改善、引当金の戻り等により減少	前年比 △357億円	▲586億円
当期純利益		SMFG連結
プロミス、セディナは赤字となったものの、 SMBCの好調により増益	前年比 +426億円	5,185億円

中期経営計画の進捗状況

	10年度 (実績)	11年度 (実績)	13年度 目標値
コアTier I比率(試算値)			
規制完全実施時基準 [評価差額金(含み益)を除く]	6%台前半 [6%弱]	7%台半ば [7%弱]	8%程度
規制導入時基準	8%強	9%強	
連結当期純利益RORA	0.8%	0.9%	0.8%程度
連結経費率	52.5%	53.5%	50%台前半
単体経費率	45.6%	46.9%	40%台後半
海外収益比率*1	23.3%	26.0%	30%程度

*1 中期経営計画期間中は、計画前提の1ドル=85円ベース

戦略施策の進捗状況

グローバル展開

- アジアを中心とする新興国に4営業拠点開設、海外人員増強
- グレーターチャイナ地域の日系企業取引推進体制を強化
- 日系企業を中心に決済ビジネスを推進
- RBSの航空機リース事業共同買収に合意
- 外貨調達手段を拡充

銀証連携(SMBC日興証券)

- 日本株グローバルオフリングに対応する体制整備完了
- M&A業務強化を狙い、Moelisと資本・業務提携
- 証券仲介等におけるSMBCとの連携を更に強化

クレジットカード/コンシューマーファイナンス事業

- プロミス、セディナの過払リスクへの抜本的対応を実施。また完全子会社化による経営資源の集中を進め、SMFGグループの来期以降の収益基盤を強化

(参考)2011年度業績サマリー

P/L

		(億円)		12年度予想
		11年度	前年比	
SMBC 単体	業務粗利益	15,325	+7	14,700
	経費*1	▲7,195	▲203	▲7,200
	<経費率>	46.9%	+1.3%	49.0%
	業務純益*2	8,130	▲196	7,500
	与信関係費用*3	▲586	△357	▲1,000
	株式等損益	▲152	+721	
	経常利益	6,953	+996	6,000
	当期純利益*4	4,780	+568	3,800
SMFG 連結	経常利益	9,356	+1,101	9,100
	当期純利益*4	5,185	+426	4,800

主要グループ会社の 連結純利益寄与(概数)

	(億円)	
	11年度	前年比
セディナ*5	▲380	▲380
プロミス*6	▲280	▲70
三井住友カード	160	+30
三井住友 ファイナンス&リース	180	+20
SMBC日興証券	190	▲60
SMBC信用保証	330	+180

格付(SMBC)

Moody's	Aa3 / P-1	R&I	A+ / a-1
S&P	A+ / A-1	JCR	AA- / J-1+
Fitch	A / F1		

*1 臨時処理分を除く *2 一般貸倒引当金繰入前 *3 前年実績は特別損益分を含む

*4 2011年度は法人税率の引下げ等の税制改正影響を含む(SMBC単体:▲226億円、SMFG連結:▲396億円)

*5 セディナ連結子会社化に伴う段階取得益117億円を含まず(2010年度)

*6 プロミス連結子会社化に伴う段階取得益251億円を含まず(2011年度)

(参考)部門別利益・貸出金 - SMBC単体・内部管理ベース -

部門別利益

		(億円)	10年度	11年度	前年比
個人部門	粗利益		3,878	3,837	▲ 55
	経費		▲ 2,903	▲ 2,895	△ 9
	業務純益		975	942	▲ 46
法人部門	粗利益		4,439	4,229	▲ 182
	経費		▲ 2,217	▲ 2,228	▲ 2
	業務純益		2,222	2,001	▲ 184
企業金融部門	粗利益		2,013	2,126	+ 80
	経費		▲ 360	▲ 382	▲ 15
	業務純益		1,653	1,744	+ 65
国際部門	粗利益		1,865	1,974	+ 274
	経費		▲ 579	▲ 649	▲ 98
	業務純益		1,286	1,325	+ 176
マーケティング部門	粗利益		12,195	12,166	+ 117
	経費		▲ 6,059	▲ 6,154	▲ 106
	業務純益		6,136	6,012	+ 11
市場営業部門	粗利益		3,307	3,193	▲ 114
	経費		▲ 179	▲ 192	▲ 13
	業務純益		3,128	3,001	▲ 127
本社管理	粗利益		▲ 184	▲ 34	+ 4
	経費		▲ 754	▲ 849	▲ 84
	業務純益		▲ 938	▲ 883	▲ 80
合計	粗利益		15,318	15,325	+ 7
	経費		▲ 6,992	▲ 7,195	▲ 203
	業務純益		8,326	8,130	▲ 196

*1 金利・為替影響等を除くベース *2 香港・台北支店における日系企業取引収益を含む
*3 金利収益を含む

プロダクト別粗利益

		(億円)	前年比*1)
ウチ 国内貸出金収益		4,854	▲ 260
国内円預金収益		1,689	(+ 7)
国際部門金利関連収益*2		1,152	(+ 151)
金利収益		8,213	▲ 120
ウチ 投資信託		469	▲ 51
一時払終身保険		106	(+ 31)
平準払保険		75	(+ 38)
個人向けコンサルティング関連収益		746	(+ 6)
ウチ シンジケーション関連		499	(+ 52)
ストラクチャードファイナンス*3		490	▲ 41
不動産ファイナンス*3		303	▲ 40
投資銀行ビジネス関連収益*3		1,548	▲ 11
ウチ デリバティブ販売		163	▲ 7
振込・EB		925	▲ 11
外為収益		435	(+ 10)
国際部門非金利収益*2		882	(+ 141)
非金利収益		3,953	(+ 237)
マーケティング部門粗利益		12,166	(+ 117)

金利・為替影響等: ▲146億円 (表面ベース)
前年比: ▲29億円

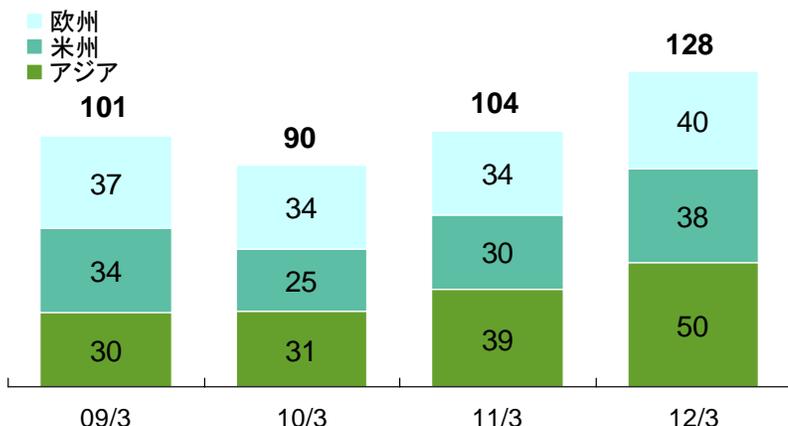
期中平均貸出残高・スプレッド

	平均残高		スプレッド	
	11年度	前年比*1)	11年度	前年比*1)
国内貸出 (兆円、%)				
ウチ 個人部門	47.6	▲1.1	1.05	▲0.03
ウチ 法人部門	15.3	▲0.1	1.46	▲0.03
ウチ 企業金融部門	16.6	▲0.9	1.13	▲0.05
ウチ 企業金融部門	11.8	+0.2	0.68	▲0.03

(参考)「グローバル展開」の進捗状況

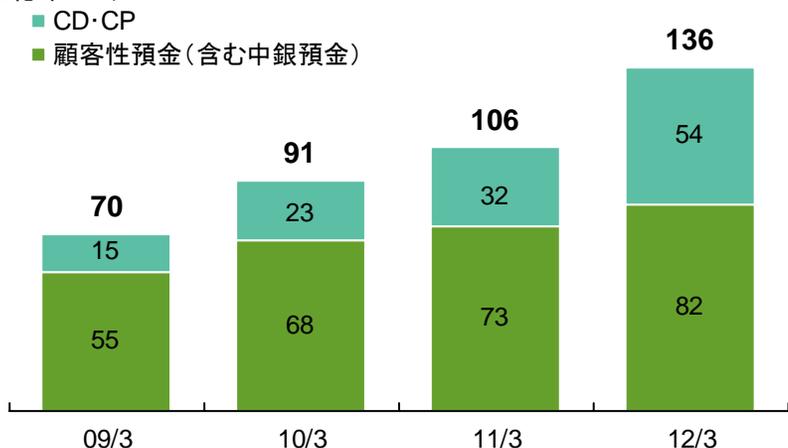
海外貸出金残高*1

(10億米ドル)



海外預金等残高*1

(10億米ドル)



強みとするプロダクト

投資銀行ビジネス*2	グローバル	アジア*3
シンジケートローン	9位	5位
プロジェクトファイナンス	3位	7位

決済サービス顧客アンケート調査
(アジア・パシフィック総合ランキング)*4

キャッシュ・ マネジメント・ サービス	大企業	4位	邦銀中、 6年連続1位
	中堅企業	4位	
	中小企業	3位	
円決済サービス		1位	6年連続1位

外貨資金調達が多様化

- 米ドルCPプログラム増枠(150億ドルへ)、ユーロCPプログラム設定(100億ユーロ)
- 海外機関投資家向け外貨建劣後債、シニア債発行
- 国内個人向け外貨建シニア債発行

外貨建て債券発行額(百万通貨単位)



*1 内部管理ベース(各期末換算レートにて換算)。SMBG、欧州三井住友銀行及び三井住友銀行(中国)の合算

*2 2011年実績、出所 トムソンロイター(マンデーティッド・アレンジャー) *3 シンジケートローン:アジア(除く日本)、プロジェクトファイナンス:アジア大洋州(含む豪州及び日本)

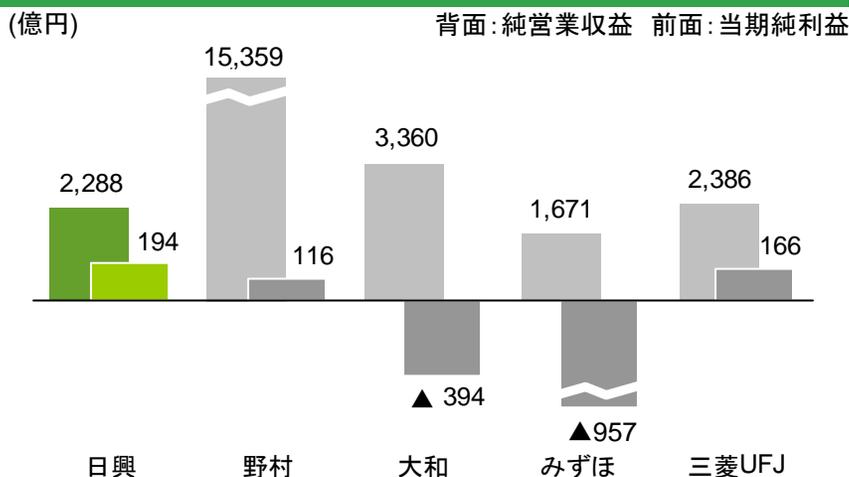
*4 出所:「ASIAMONEY」誌キャッシュ・マネジメント・サービス調査2011年8月号

(参考)「銀証連携」の進捗状況

SMBC日興証券(連結)業績推移

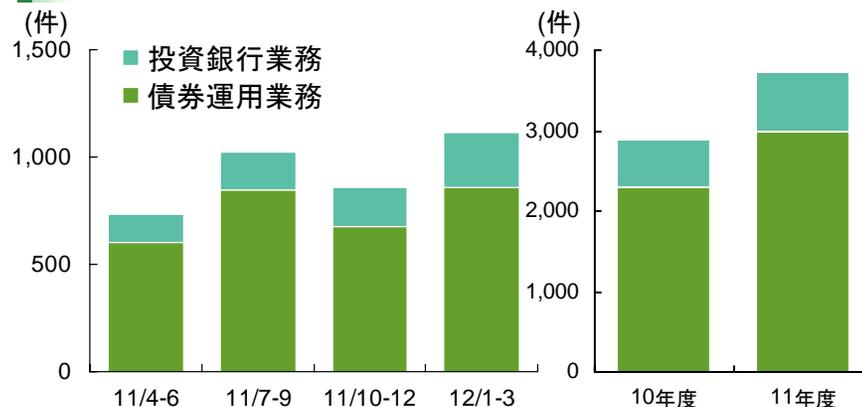
(億円)	10年度	11年度	前年比
純営業収益	2,138	2,288	+150
販売費・一般管理費	▲1,711	▲1,851	▲140
経常利益	431	445	+14
当期純利益*1	254	194	▲60

他社比較(11年度)*2



銀証連携

SMBCからSMBC日興証券への紹介件数



ホールセールビジネスの強化(SMBC日興証券)

リーグテーブル(2011年度)

	順位	シェア
株式関連(ブックランナー、引受金額)*3	3位	18.1%
円債総合(主幹事、引受金額)*4	5位	12.6%
ファイナンシャル・アドバイザー(M&A、案件数)*3	2位	3.1%

*1 2011年度は法人税率の引下げ等の税制改正影響▲48億円を含む *2 各社公表資料に基づく。野村は野村ホールディングス連結(米国会計基準、収益合計(金融費用控除後)及び当社株主に帰属する当期純利益を記載)、大和は大和証券グループ本社連結、みずほはみずほ証券連結、三菱UFJは三菱UFJ証券ホールディングス連結

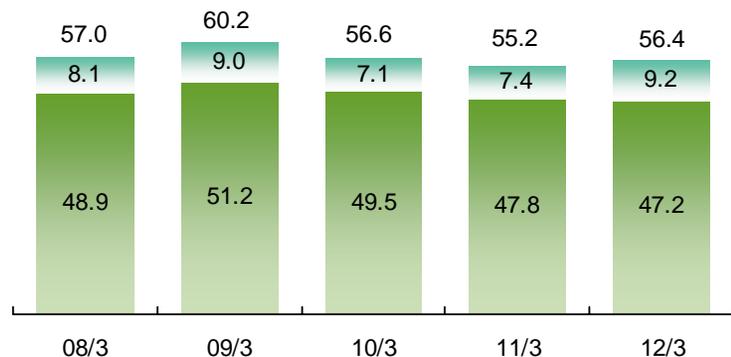
*3 出所: トムソンロイター(日本企業関連、グループ合算ベース) *4 出所: SMBC日興証券(事業債、財投機関債・地方債[主幹事方式]、サムライ債)

(参考) バランスシート関連主要項目の時系列推移

貸出金残高

(兆円) (SMBC単体)

■ 海外店分及び特別国際金融取引勘定分
■ 国内店分(除く特別国際金融取引勘定)



不良債権残高及び同比率*1

(億円) (SMBC単体)

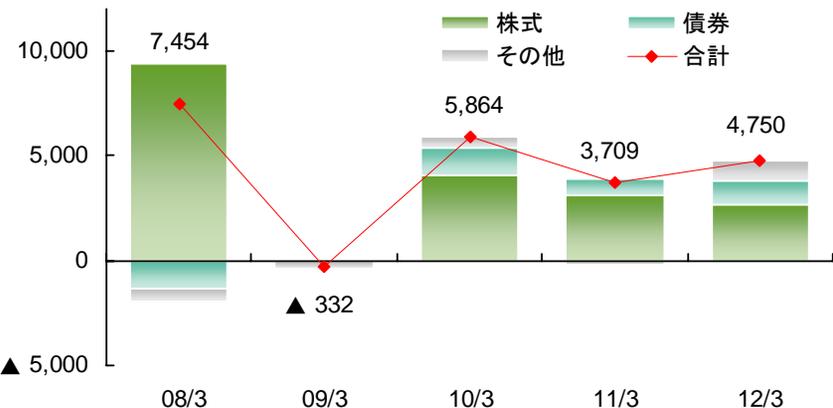
■ 不良債権残高 ◆ 不良債権比率



その他有価証券評価損益

(億円) (SMFG連結)

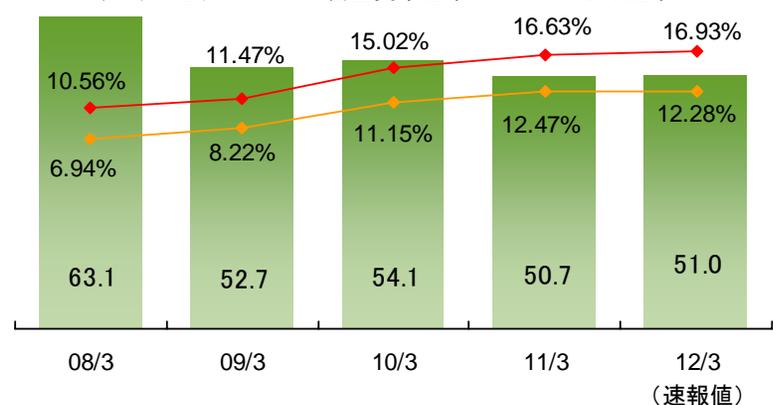
■ 株式 ■ 債券 ■ その他 ◆ 合計



自己資本関連*2

(兆円) (SMFG連結)

■ リスクアセット ◆ 自己資本比率 ◆ Tier I 比率



*1 不良債権比率=金融再生法開示債権残高(除く正常債権)/総与信

*2 Basel II ベース。信用リスクアセット計測手法 08/3月末:基礎的内部格付手法(FIRB)、09/3月末以降:先進的内部格付手法(AIRB) オペレーショナルリスク:先進的手法(AMA)

(参考) 資本・リスクアセット

(億円)	11/3月末 (a)	12/3月末 (速報値) (b)	(b) - (a)
Tier I	63,240	62,723	▲517
ウチ 資本金・資本剰余金	33,167	30,977	▲2,190
[ウチ優先株]	[2,100]	[-]	[▲2,100]
ウチ 利益剰余金	17,028	20,844	+3,816
ウチ 海外特別目的会社の 発行する優先出資証券	15,936	15,889	▲47
ウチ 為替換算調整勘定	▲1,229	▲1,414	▲185
ウチ 証券化取引に伴い 増加した自己資本相当額	▲363	▲383	▲20
Tier II	25,370	27,711	+2,341
ウチ その他有価証券含み益の 45%相当額	1,693	2,146	+453
ウチ 一般貸倒引当金	1,000	667	▲333
ウチ 永久劣後債務	2,430	1,492	▲938
ウチ 期限付劣後債務	19,672	23,049	+3,377
控除項目	▲4,281	▲3,996	+285
BIS自己資本	84,329	86,438	+2,109
リスクアセット	506,937	510,432	+3,495
自己資本比率	16.63%	16.93%	+0.30%
Tier I 比率	12.47%	12.28%	▲0.19%
コアTier I比率(完全実施時基準)	6%台前半	7%台半ば	+1%強
コアTier I比率(規制導入時基準)	8%強	9%強	+1%強
繰延税金資産純額	6,242	3,502	▲2,740

Tier I

- ① 第六種優先株式の取得及び消却(2011年4月1日付) ▲2,100億円
- ② 連結当期純利益 + 5,185億円
- ① 配当 ▲1,387億円

繰延税金資産の対Tier I比率(SMFG連結):
12/3月末:5.6%(11/3月末比 ▲4.3%)

Tier II

- ③ 永久劣後債務償還 ▲938億円
- ④ 国内劣後債調達(SMBC) +3,960億円

リスクアセット

(億円)	11/3月末	12/3月末 (速報値)	11/3月末比
⑤ 信用リスクアセットの合計額	464,186	459,765	●▲4,420
④ マーケットリスク相当額	5,840	11,742	+5,902
⑤ オペレーショナルリスク相当額	36,911	38,925	+2,014
合計	506,937	510,432	+3,495

海外ビジネスの強化に加え、プロミス連結子会社化影響(約9,000億円)もあった一方、国内与信減少を背景に減少

バーゼル2.5開始によるストレスVaR導入影響(約4,000億円)

* コアTier I比率はバーゼルⅢベース。それ以外はバーゼルⅡベース(信用リスク:先進的内部格付手法、オペレーショナルリスク:先進的計測手法)

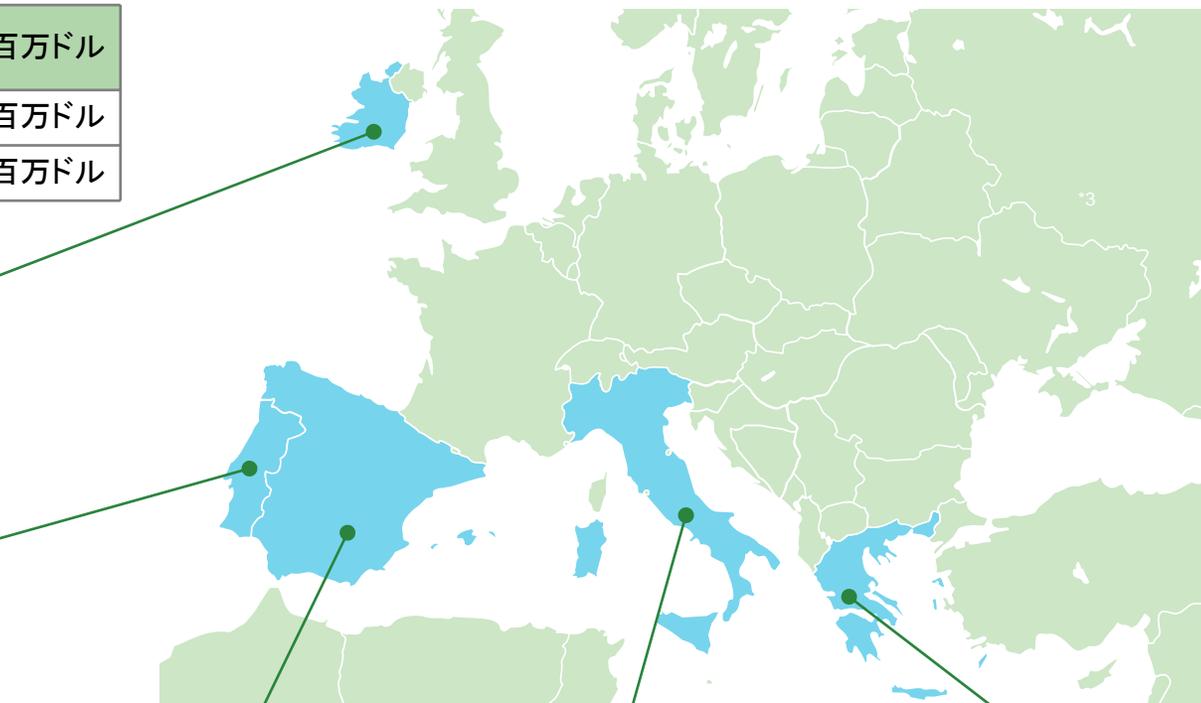
(参考) GIIPS向けエクスポージャー

12年3月末のGIIPS向けエクスポージャー: 約57億ドル

GIIPSの 国債保有残高	約3百万ドル
スペイン	約2百万ドル
イタリア	約1百万ドル

アイルランド
約4億ドル
在アイルランド保険会社
の保険を付保している
エクスポージャー

ポルトガル
約0.5億ドル



スペイン
約22億ドル
大企業向け、
プロジェクトファイナンス

イタリア
約29億ドル
大企業向け、
プロジェクトファイナンス

ギリシャ
約0.7億ドル
大半が担保により保全

本資料には、当社グループの財政状態及び経営成績に関する当社グループ及びグループ各社経営陣の見解、判断または現在の予想に基づく、「将来の業績に関する記述」が含まれております。多くの場合、この記述には、「予想」、「予測」、「期待」、「意図」、「計画」、「可能性」やこれらの類義語が含まれますが、この限りではありません。また、これらの記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものであり、実際の業績は、本資料に含まれるもしくは、含まれるとみなされる「将来の業績に関する記述」で示されたものと異なる可能性があります。実際の業績に影響を与えるリスクや不確実性としては、以下のようなものがあります。国内外の経済金融環境の悪化、当社グループのビジネス戦略が奏功しないリスク、合併事業・提携・出資・買収及び経営統合が奏功しないリスク、海外における業務拡大が奏功しないリスク、不良債権残高及び与信関係費用の増加、保有株式に係るリスクなどです。こうしたリスク及び不確実性に照らし、本資料公表日現在における「将来の業績に関する記述」を過度に信頼すべきではありません。当社グループは、いかなる「将来の業績に関する記述」について、更新や改訂をする義務を負いません。当社グループの財政状態及び経営成績や投資者の投資判断に重要な影響を及ぼす可能性がある事項については、本資料のほか、有価証券報告書等の本邦開示書類や、当社が米国証券取引委員会に提出したForm 20-F等の米国開示書類、当社グループが公表いたしました各種開示資料のうち、最新のものをご参照ください。